

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスいもむし・おおい		
○保護者評価実施期間	2026年1月 10日		2026年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年3月2日		2026年3月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・とても広い空間で子どもたちを受け入れのびのびと過ごすことができる事。 ・すぐに広い庭に出て遊ぶことができ、室内からも見守りができる環境。 ・夏休みは大きなプールを広げて水遊びができること。	・体を思いきり動かせる十分な部屋があり、3畳分くらいのエアートランポリンを広げて過ごすことができる。外で遊べない日も工作やおもちゃを大きく広げて遊ぶ部屋、静かに本を読んだりゆっくり過ごせる部屋を設けている。 ・自然豊かな庭がすぐれにあり、天気の良い日は走り回ったりシャボン玉をして遊べる場所がすぐにある。	・築年数が経っているため、定期的にメンテナンスを行う。古い建物ではあるので、安全面を定期的に確認する。 ・利用者の様子や状況に応じて、適宜部屋のレイアウトを考慮する。
2	送迎も支援職員が行っているため、様子や学校の伝言等をタイムリーに伝えることができる	連絡帳は任意であるが、その日に気になったことやエピソードは保護者の方に送迎時に伝えるようにしている。気になることがある場合は、管理者に連絡を直接いただける連絡先を周知している。	職員間の共通認識を図り、おなじ利用者様に統一した支援を行っていくように、日々の会議等で共有していく。
3	契約から卒業まで見届けることができおり、通所自体を嫌がる利用者様が少ない	自由な空間で、ルールややるべきことはある中で、あまり型にとらわれ過ぎず、柔軟に対応していく環境と人員がある。	5領域にすぐ踏み込んだ支援となっていないところもあるが、しっかり計画書に盛り込んだように支援を重ね、長期スパンで向上を目指していけるように職員間で共通認識をもち、支援力を高める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今回のアンケートで、様々なリスクに対しての周知が保護者に対して適切にできていない様子がうかがえた。	不定期にA4サイズの紙でお知らせのような形で緊急時のことについてまとめた手紙を出していた。契約時に説明はしているが、まだ利用もしていない状況で説明をされてもわかりにくいことがあると思う。	2025年度に行われた市の実地指導でも、様々なマニュアルの周知方法についてご指摘を受けたこともあり、毎年4月の新学期始まりに、わかりやすくファイルにまとめたものを利用家庭全員に配布していく方向で行う。
2	保護者に対してのアナウンスが行き届いていない(保護者会の開催・非常時について)	非常時の対応については、契約時に説明しているが、わかりやすい書面しておく必要があるようである。保護者会についても、コロナ禍も落ち着いたので、検討していく。	・非常時のことに関しては、年2回の保護者面談で適宜説明する。書面にしてお配りできるようにしておく ・保護者会の開催を皆一度にはなく、年齢やテーマに沿って開催するなど検討していく
3	行動障害によって、対応が難しい子が出てきてしまう。特定の職員に負担が多くなりがち。	・関わりの難しいお子さんに対して、特定の職員に負担が偏ってしまうことが否めないが、支援者として、色々な人とも関わられるようにアプローチしていくことが足りない。 ・アクティブな遊びや運転などに関して、職員に偏りが出してしまう傾向があり、安全性を考慮すると、年齢による制約は避けられない部分もあるため、役割を把握し、チームとして構成していくようにする	児童発達管理責任者が対応を把握し、「こういうふうにしたらうまくいったよ」と共有し、誰でもできるようにする方向性を持つ。様々な子どもと関わりを持ち、支援内容をチームで検討しながら、子どもたちにとっても職員にとっても経験値が上がる支援を心掛ける。